

令和元年12月

各 位

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構  
(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(代表理事：井植 敏)は、「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞)を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

この度、第19回受賞候補論文を募集しますので、ぜひご推薦を賜りますようお願いいたします。  
なお、今回募集要項の一部見直しを行っておりますので、ご留意ください。

#### 記

- 対象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生で、平成27年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済(平成27年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可)、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者

- 論文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

- 提出期限

令和2年4月17日(金)【必着】

- 受賞者及び賞の内容

受賞者数 2名程度

賞の内容 本賞：表彰状及び副賞(100万円)

- その他

応募・ご推薦に際しては募集要領をご覧ください。

「アジア太平洋フォーラム・淡路会議ホームページにも募集要項を掲載しております。  
また過去の受賞者については、同ホームページの「顕彰事業」をクリックすればご覧いただけます。」

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2  
人と防災未来センター東館6F  
公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構  
(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

TEL: 078-262-5713 FAX: 078-262-5122

E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp

HP: <http://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

## 第19回「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞) — 募 集 要 項 —

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(代表理事:井植 敏)は、「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞)を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

第19回受賞候補論文を次のとおり募集しますので、奮ってご応募ください。

### ■ 主 催

アジア太平洋フォーラム・淡路会議

### ■ 後 援

朝日新聞社大阪本社(予定)

### ■ 対 象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生で、平成27年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済(平成27年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可)、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者。

### ■ 論 文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

### ■ 応募期間

令和元年12月10日(火)～令和2年4月17日(金) 必着

### ■ 応募書類

1および2の①～④のすべてを応募期間内必着で送付のこと。【持参不可】

1. 所定の推薦書(ホームページからダウンロード可)
2. 添付書類(日本語または英語表記に限る)

①～③はA4判紙媒体、④は電子媒体にて提出のこと

- |        |                 |
|--------|-----------------|
| ①博士論文  | 1部(製本・未製本いずれも可) |
| ②論文要旨  | 1部(片面1枚)        |
| ③②の要約文 | 1部(300字以内)      |

④上記①～③のPDFデータを保存したCD-ROM又はUSBメモリ

上記①～③それぞれを独立した3つのPDFファイルとし、ファイル名には執筆者名を入れて日本語または英語で保存のこと。

(例:①博士論文のPDFファイル「淡路太郎 博士論文.pdf」)

\*博士論文が書籍化されている場合は、書籍1部を合わせて提出すること。なお、提出された書籍は、審査終了後に返却します。

応募書類に不足・不備がある場合は、応募を受け付けないこともあります。  
書籍以外の応募書類は返却しません。

## **The 19th Asia Pacific Research Prize (Iue Prize)**

### **—Application Outline—**

The Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan, which aims to create and spread a “new Asia Pacific vision” of symbiosis among the diverse cultures of the Asia Pacific region, established the Asia Pacific Research Prize (Iue Prize) to reward outstanding dissertations in the field of humanities or social sciences relating to the Asia Pacific region. Applications for the 19th Asia Pacific Research Prize (Iue Prize) are invited under the following conditions:

- Organizer  
Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan
  
- Support  
The Asahi Shimbun Osaka Head Office (tentative)
  
- Eligibility  
Japanese or international students who have officially enrolled in a post-graduate course at a Japanese graduate school and have been conferred a doctorate from such institution after March 2015. A letter of recommendation is required from the advisor of the graduate school.
  
- Dissertation
  1. The dissertation should detail research in the humanities or social sciences that contributes to the realization of a “multicultural symbiotic society” in the Asia Pacific region.
  2. Dissertations submitted in previous years are not acceptable.
  
- Application Deadline  
April 17, 2020
  
- Application Documents (non-returnable)  
All documents 1. and 2.1. to 2.4. listed below must arrive by Friday April 17, 2020: Submitting in person is not acceptable.
  1. Prescribed Letter of Recommendation (downloadable from the website shown below)
  2. Supplementary documents (either in Japanese or English)  
Documents 2.1. to 2.3. must be submitted as A4 sized-paper copies and 2.4. in an electronic medium:
    - 2.1. Copy of the dissertation (either in sheets or bound)
    - 2.2. Outline of the dissertation (one page; single-sided printing)
    - 2.3. Summary of the outline (120-word summary of the outline of the dissertation mentioned above)
    - 2.4. Recording medium such as a CD-ROM or USB flash drive containing PDF data of 2.1. to 2.3. shown above. Each document must be saved as an individual PDF file under the applicant's surname, e.g. “SMITH dissertation.pdf”.

# 未来へ 共生探ろう

アジア太平洋地域の将来について議論する「第20回アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(井植敏・代表理事)が8月、兵庫県淡路市であった。第18回アジア太平洋研究賞(井植記念賞、朝日新聞社後援)の佳作に選ばれた京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科特任研究員の黄潔さん(39)、韓国・国民大学グローバル人文・地域学部日本学科非常勤講師の朴敬珉さん(37)、大阪大学大学院人間科学研究科特任助教のアレキサンドラ・パーボウイッチさん(32)の3人の授賞式も行われた。

中国出身の黄さんは、中国南部の少数民族トン族の社会について、河川流域を単位とする地域システムに着目した新しい視点で詳細に考察したことが評価された。授賞式のあいさつで「トン族が漢民族の文化の影響を受けつつ、タイ北部の民族と似た独自の社会をつくり続けてきたことに驚いた。中国少数民族と東南アジアの研究を架橋する成果を出したい」と語った。

韓国出身の朴さんは、植民地時代の朝鮮で生活していた日本人が、戦後の日韓国交正常化交渉で果たした役割と影響を実証的に明らかにした。「朝鮮から引き揚げて日本人が植民地時代に所有していた財産を、日本政府は国交正常化交渉で問題にした。歴史認識の相違など現在の日韓関係悪化につながる問題だが、多文化共生へ向け学問的に貢献したい」とあいさつした。

セルビア出身のパーボウイッチさんは、第2次大戦後の極東国際

## 授賞式と講演



黄潔さん



朴敬珉さん



パーボウイッチさん

軍事裁判(東京裁判)の判決の実施過程を、戦争犯罪人の扱いや再軍備の問題などに目配りしつつ歴史的分析した。「憲法9条のもと、軍事力行使してこなかった日本の安全保障と民主主義を研究してきた。今後日本が世界でどのような役割を果たすか考えたい」

と述べた。

記念講演では、建築家の安藤忠雄さんらが「21世紀のアジア太平洋社会の展望」をテーマに講演。安藤さんは自ら取り組んできた大阪市内や瀬戸内の島々での植樹や緑化、東日本大震災の遺児育英資金づくりなどの活動を挙げ、「多くの人が資金を寄せ、共に生きようとしてくれた。資源に限りがあり、世界人口も増えつつある今、希望と好奇心を持ち、自然と共生する世界をつくらねばならない。個人も企業も、利益ばかりを追うのではなく、社会に何ができるのかを考えるべきだ」と訴えた。

文化人類学者の青木保さんは「21世紀に入り、東アジア各国で消費生活が向上し、文化施設や大学も充実。映画やファッションなどソフト面も大きく発展し、文化の時代を迎えた」と指摘。「総合的な文化力の強化と対外的発信が重要。神戸にアートやショッピングなどの機能も備えた巨大なアジア・太平洋国際文化芸術生活センターの設立を」と提唱した。

タイの元商務相のナロンチャイ・アクラサニーさんは「デジタル化でeコマース(ネット上の電子商取引)など新たなテクノロジーが急成長し、アジア太平洋地域の経済に大きな影響を与えている。省エネに役立つプロジェクトを推進し、より緊密な協力関係を築けば、アジア太平洋地域の重要性は世界で一層増すだろう」と述べた。

(池田洋一郎)